

タイトル	農業体験と環境教育ー参加者の意識の変化ー
氏名 (所属)	安本和正、中嶋利子 (微生物応用技術研究所) 杉本晃昭、須貝幸司 (自然農法文化事業団)
ホームページ	<a href="http://izu.biz/bioken/">http://izu.biz/bioken/</a> <a href="http://nature-run.at.webry.info/">http://nature-run.at.webry.info/</a> (ブログ)
キーワード	農業体験、農業教室、家族、食
アピール文	田植え、稲刈、野菜の収穫などのスポット的な体験と、継続した野菜づくりを体験する農業教室を並行して行なっている。どちらの参加者にも食や農、自然環境に対する意識が高まってきている。その様子について報告する。
要旨	<p><u>場所</u>                  (財) 微生物応用技術研究所(旧・(財)環境科学総合研究所) 岩倉農場。                  京都市北部に位置し自然豊かな里山の原風景を残す。面積は水田、畑、施設を含めて約3000㎡。1984年に研究目的で開設され、無農薬、無科学肥料で栽培を続けている。</p> <p><u>活動の概要</u>                  11年前から農業体験を通じた環境教育を思考錯誤しながら実践している。                  ・スポット的な体験 (10年以上前から実施) ー幼稚園、保育園、フリースクール、親子、一般を対象に田植え、稲刈、野菜収穫、調理、収穫祭、餅つきなど。                  ・継続的な体験 (農業教室として2年目) ー家族やグループを対象に、土作りから種まき、管理、収穫までの一貫した野菜づくりの実習および環境、農、食など周辺を考える学習会。</p> <p><u>参加者の反応と変化</u>                  幼稚園の体験では最初は先生方が汚れないように、怪我をしないようにと気を使われていたが、回を重ねる毎に一緒に観察したり遊んだりするようになった。子供達もより積極的に活動するようになった。親子での収穫体験では最初は良い野菜が沢山欲しいという傾向もあったが、最近では自然の中での貴重な体験として家族で楽しみ、農業や環境についても興味を持って質問をしてくれる人も増えてきた。参加した感想として、嫌いだった野菜が食べられるようになった、環境が良くて気持ちいい、虫が沢山いて楽しい、子供とゆっくり関わられた、など好意的なものが多かった。</p> <p>農業教室は2年目になるが、1年目の参加者に継続したいとの希望が多かったので、一年コースを設け、通年の作物を加えた。新たな参加者は半年コースとした。オリジナルのテキストは使いやすいように改良した。</p> <p>継続参加のグループは栽培実習でも余裕が有り、作物や土の様子をしっかりと観察して自分なりの工夫をするようになった。昨年と同じ作物でも全く違う生育を示すものがあり、驚きと共に土の状態や気候変化が大きな影響を及ぼすことも皆で実感した。新たに参加したグループは家庭菜園の経験者、土に触るのも全く初めての人、体力的にも不安な人など様々であったが、お互いに協力しながら最後まで続けることが出来た。作物は生育の良いもの悪いものがあるが、前期(春作)では特にキュウリが良く、収穫が遅れると巨大化するの驚く人が多かった。またその大きなキュウリがかえって美味しいという発見もあった。</p> <p>月1回の講習日には栽培実習に加えて学習の時間を設け、作業内容の確認と関連した様々な話題を提供し、映像とテキストを使って分かりやすく解説した。毎回、和やかな雰囲気の中で子供達も交えて活発な質疑応答が行なわれた。1年間の取り組みを通して参加者たちは、害虫対策など思うようにゆかないことも多かったが、その都度工夫しながら作物に接したので愛着を持つようになった。収穫した野菜はどれも大切に持ち帰られ、沢山取れたものは知り合いに配ったり食べ方を工夫されたりしているようだった。</p> <p>以上のように、農業体験はスポット的な体験、継続した体験それぞれで成果が認められ、地道に続けて生活と結びつけていくことが大切と感じた。</p>